

令和4年度 健康保険組合の予算早期集計結果（概要）について

令和4年4月28日
健康保険組合連合会

- ① 令和4年度予算の経常収支は、▲2,770億円の赤字となる見通し（組合全体の約7割が赤字）。
- ② 高齢者等拠出金が、▲2,080億円（▲5.7%）減少。これは、令和2年度の新型コロナ感染拡大による高齢者医療費減の精算戻り等の影響による、一時的かつ極めて異例な減少。
- ③ 保険料収入は、2,628億円（3.3%）の増加。足元の標準報酬は、月額1.4%、賞与額7.5%と、前年度に比べ回復基調にあるものの、新型コロナ感染拡大前の令和元年度決算と比べて、月額▲0.1%、賞与額▲5.1%と、依然として低いまま。



- 令和5年度以降は、一時的な拠出金減少の反動に加え、団塊世代の75歳到達により後期高齢者支援金が増加局面を迎えるため、高齢者拠出金が急増することは必至であり、急激な財政悪化が予想される。（令和5年度高齢者拠出金は2,600億円増の見込み）。
- ※ 今後の新型コロナ感染状況や経済環境の変化により、報酬の伸びや保険給付費の伸びが大きく影響を受けるなど、現時点では拠出金増加以外の不確定要素もある。

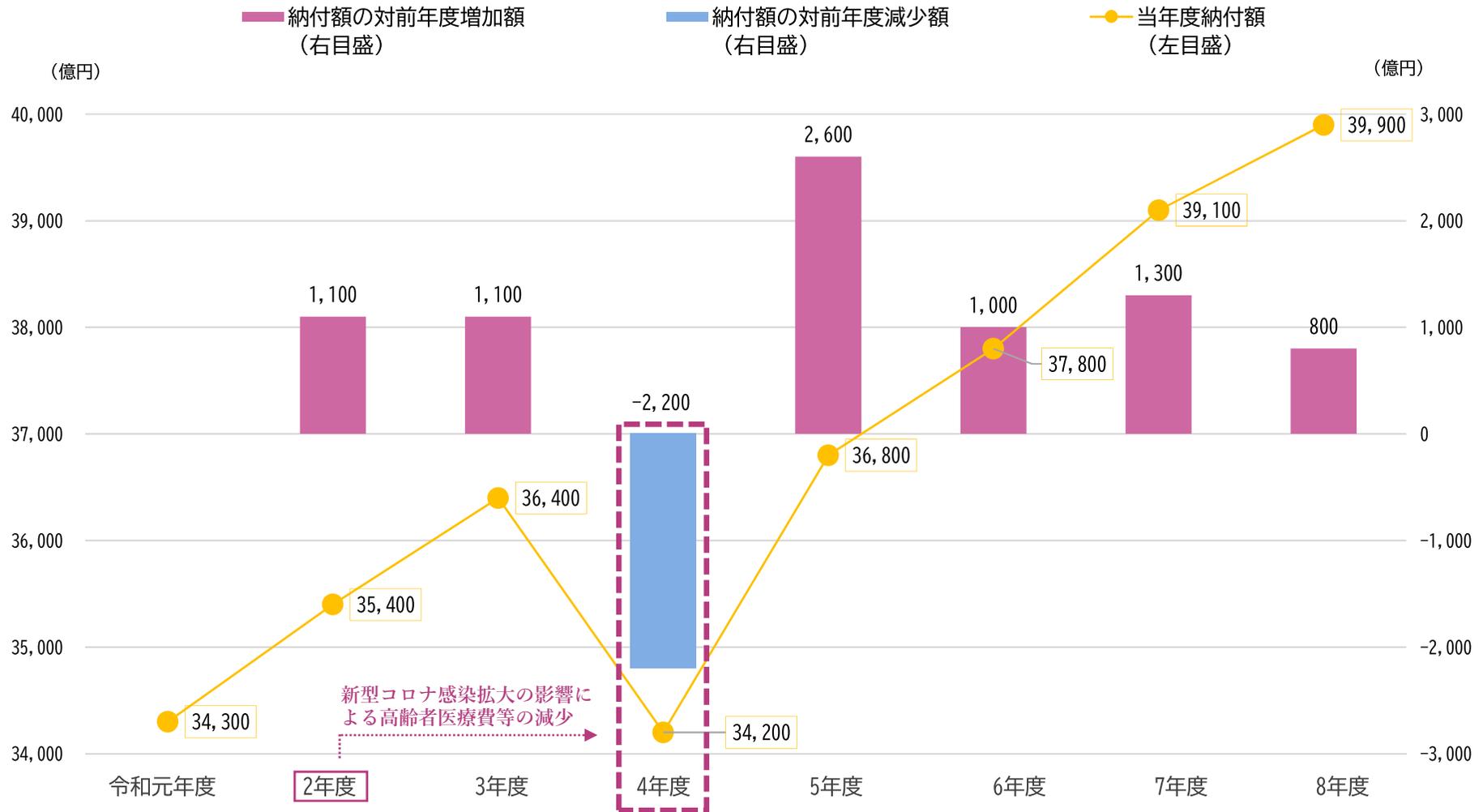
主な項目	令和4年度予算	令和3年度予算	伸び率
保険料収入	8兆2,723億円	8兆0,095億円	3.3%
保険給付費	4兆5,348億円	4兆2,969億円	5.5%
高齢者等拠出金	3兆4,514億円	3兆6,594億円	▲5.7%
経常収支差引額	▲2,770億円	▲5,028億円	—

平均標準報酬月額	37万7,846円	37万2,786円	1.4%
平均標準賞与額	111万9,453円	104万1,715円	7.5%
平均保険料率	9.26%	9.23%	+0.03p
実質保険料率	9.85%	10.05%	▲0.20p

- 平均保険料率は0.03ポイント増の9.26%。料率を引き上げた組合は145組合。収支均衡に必要な財源を賄うための実質保険料率は0.2ポイント減少し、9.85%。新型コロナ感染拡大前の令和元年度決算と比べて、平均保険料率は0.04ポイント増、実質保険料率は0.93ポイント増。
- 高齢者等医療への拠出金は前年度比2,080億円(5.7%)減の3兆4,514億円、うち前期高齢者納付金は前年度比1,871億円(11.4%)減の1兆4,555億円、後期高齢者支援金は前年度比211億円(1.0%)減の1兆9,956億円。
- 保健事業費は、前年度比73億円(1.7%)増の4,483億円。
- 介護保険料は0.02ポイント増の1.78%。料率を引き上げた組合は233組合。

※本概要は、令和4年度予算編成状況について報告のあった1,358組合の数値をもとに、同年4月1日時点で存在する1,387組合の財政状況を推計したもの。平均保険料率及び実質保険料率には調整保険料率を含む。

高齢者拠出金額の動向と見通し（健保組合分）



注1) 加入者数（令和4年度概算要求ベース）と標準報酬総額（令和3年度見込み）を固定したごく粗い試算である。

注2) 当年度納付額は、当年度概算額に2年前の精算額を加えて算出する。

拠出金の一時的な減少は、令和2年度の新型コロナ感染拡大に伴う高齢者医療費等の減少が最大の要因

- 対前年度予算比▲5.7%の2,080億円の一時的な拠出金の減少は、新型コロナ感染拡大に伴う令和2年度の高齢者医療費等の減少により、令和4年度分の【①概算額】（見込み）が対前年度予算比▲1.7%の630億円減少するとともに、令和2年度分の【②精算額】が▲1,445億円の「返還」となったことによるもの。

令和4年度予算の拠出金及び概算額・精算額

	令和4年度予算早期	令和3年度予算	対前年度比 伸び率（差額）
健保組合予算による納付金額 （①概算額+②精算額に基づき設定）	3兆4,514億円	3兆6,594億円	▲5.7% （▲2,080億円）
当該年度分の①概算額 〔※2年度前の実績値に国が示す伸び率を 乗じて推計した当該年度の値を基に算出〕	3兆5,484億円	3兆6,114億円	▲1.7% （▲630億円）
2年度前分の②精算額	▲1,445億円（返還） 〔※新型コロナ影響前の概算額 と影響後の確定額の差〕	330億円（追徴）	—

注）表中の「納付金額（令和4年度：3兆4,514億円）」は、健保組合が予算として計上した金額の合計であり、①概算+②精算の計（令和4年度：3兆4,039億円）とは一致しない。